

国立環境研究所の一部機能移転について

1 経過

- 東京の一極集中を是正し、地方における「しごと」と「ひと」の好循環を促進するため、平成27年3月に内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が「地方創生に資すると考えられる政府関係機関の地方移転に係る提案」を各道府県等に募集。
- 平成27年8月に、国立研究開発法人国立環境研究所（以下「国立環境研究所」という。）の滋賀県琵琶湖環境科学研究センター（以下「琵琶湖センター」という。）への一部機能移転（琵琶湖分室（仮称）の設置）を滋賀県から提案した。
- 平成28年3月に「政府関係機関移転基本方針」（平成28年3月22日付け内閣官房まち・ひと・しごと創生本部決定）により、以下のとおり国立環境研究所の一部機能移転が正式決定された。

移転対象地域	対象機関	移転の概要	移転の内容
滋賀	(独) 国立環境研究所	湖沼環境研究分野の研究連携拠点の設置	国立環境研究所と滋賀県琵琶湖環境科学研究センターの研究者等が参画した共同研究の拠点として、国立環境研究所の湖沼環境研究分野の「分室（仮称）」を滋賀県琵琶湖環境科学研究センター内に設置する。 このため、平成28年度に準備チームを両機関で発足させるとともに、共同研究に着手する。 これによって、我が国の湖沼環境研究をリードする国立環境研究所と滋賀県琵琶湖環境科学研究センターとの連携強化を図るとともに、地元の大学・企業等を巻き込んだ湖沼環境研究の更なる発展と研究成果の活用・実用化を図る。

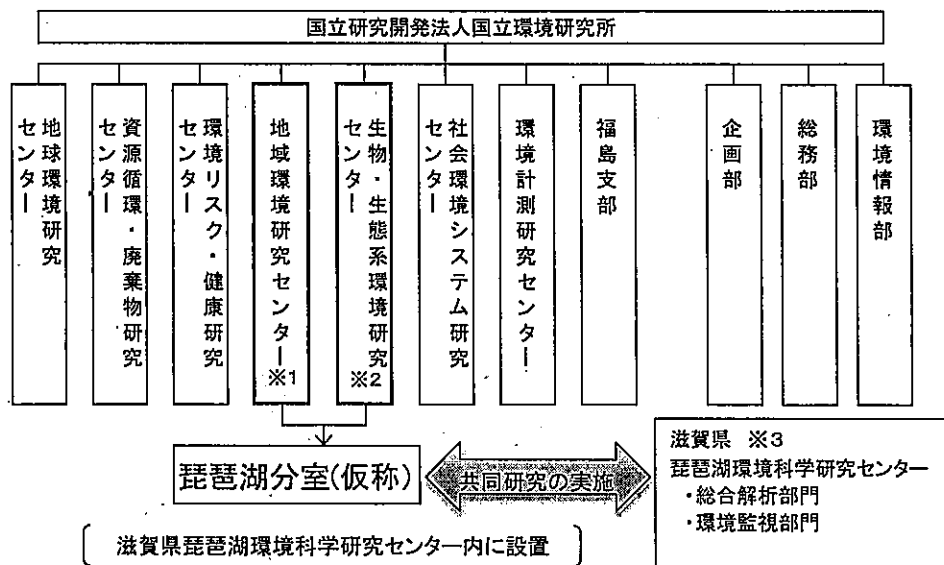
2 国立環境研究所の概要

(1) 沿革

- 昭和49年3月に国立公害研究所として設立。平成2年7月に国立環境研究所に改称。その後、平成13年4月に独立行政法人に改組され、日本で唯一の国立の環境研究所として、様々な環境問題に対し原因の究明と解決策を見出す研究を行っている。

(2) 所在地 茨城県つくば市小野川16-2

(3) 組織図



3 環境省、国立環境研究所との協議の状況

- 平成 28 年 4 月 28 日に環境省・国立環境研究所・滋賀県の 3 者で、「国立環境研究所琵琶湖分室（仮称）設置準備チーム」を設置。
- 以後、準備チームの会合を開催するとともに、国立環境研究所や琵琶湖センターを双方が訪問するなどして、移転および共同研究の内容について、以下のとおり協議を実施。

(1) 目的

- 国との連携強化や、地元の大学・企業等を巻き込んだ湖沼環境研究の更なる発展と研究成果の活用・実用化を図ることにより、地域イノベーションを創出して、地方創生につなげることを目指す。

(2) 移転時期

平成 29 年度に琵琶湖分室（仮称）を設置。

(3) 規模

分室（仮称）長、研究員（数名）を基本に調整中。

(4) 移転対象分野等

- 移転対象分野は、国立環境研究所の地域環境研究センターおよび生物・生態系環境研究センターの湖沼環境研究分野のうち、滋賀県との共同研究を実施する分野を予定。
- 当面の共同研究実施分野は次の内容で調整中。
 - 琵琶湖における有機物収支に関する研究
 - 底泥環境の評価と底泥溶出に関する研究
 - 湖沼の生物資源利活用に関する研究
 - 湖沼の水質改善に関する研究
- 琵琶湖分室（仮称）の設置にあたり、机、椅子等の初度調弁等を滋賀県が準備。
- また、琵琶湖センター内のスペースを無償提供。

4 その他検討課題

- 地方創生推進交付金の活用について検討。
- 平成 29 年度当初予算、体制について検討。

※1 地域環境研究センター

- 湖沼・河川環境研究室や海洋環境研究室、広域大気環境研究室等、7つの研究室で構成されており、大気、水、土、生態系の環境を守る研究を実施している。

※2 生物・生態系環境研究センター

- 生物多様性資源保全研究推進室や生物多様性評価・予測研究室、生物多様性保全計画研究室等、7つの研究室で構成されており、生物多様性・生態系に関する調査・研究等を実施している。

※3 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

- 琵琶湖と滋賀の環境に関する研究の中心的役割を担う組織として、滋賀県琵琶湖研究所および滋賀県立衛生環境センター（環境部門）を統合し平成 17 年 4 月に開設。
- 琵琶湖センターでは、琵琶湖環境にかかる継続的なモニタリングとその評価分析を行うとともに、琵琶湖と滋賀県の環境が直面する様々な課題の解決を目指した試験研究を実施している。

国立環境研究所琵琶湖分室(仮称)と滋賀県琵琶湖環境科学センターの連携による研究展開

○研究成果の活用による国内外の環境保全の推進と、民間活力との連携による環境産業の活性化を目指します。

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部
「政府関係機関移転基本方針」資料

日本の湖沼の先駆けとして研究実施

三方よし
湖沼・国民・企業



【研究テーマ候補】

- ・琵琶湖における有機物収支に関する研究
- ・底泥環境の評価と底泥溶出に関する研究
- ・湖沼の生物資源の利活用に関する研究
- ・湖沼の水質改善に関する研究

発展段階

琵琶湖と集水域を一体とした研究を推進

企業、国、県の連携研究により
技術・製品開発が深化

日本の湖沼環境保全の推進

世界の湖沼保全に貢献

環境保全産業の発展に貢献

立ち上げ段階

研究成果の活用

琵琶湖をフィールドとした研究を実施
◀地方創生の深化のための新型交付金活用▶

民間活力との連携

企業、国、県の連携研究に着手

琵琶湖畔には、様々な環境産業が立地

研究内容への国際的関心の高まり

企業の国際的関心の高まり

企業立地加速

湖沼の生物資源の有効利用促進

水処理技術の向上

計測機器の精度向上

【関連企業】

水処理、計測機器、飲料、繊維関係メーカー等

支援

- ・「しが水環境ビジネス推進フォーラム」「びわ湖環境ビジネスメッセ」(商談・情報発信・交流の場)
- ・技術開発等への支援

環境産業の活性化

大学・研究機関・企業等との連携

琵琶湖の保全及び再生に関する法律・基本方針(国)・基本計画(滋賀県)